

# Green Map Harmony

vol. 1

特定非営利活動法人  
グリーンマップジャパン  
Annual Report  
from April 2005 to March 2006

GREEN  
MAP  
JAPAN

## グリーンマップ・アジアハブ会議報告



2005年グリーンマップは、「愛・地球博」の地球市民村に公式参加。NPO法人中部リサイクル運動市民の会が出席参加した地球市民村「グリーンマップ館」で8月の1ヵ月間、瀬戸愛知県館「にぎわいの里」では「愛知グリーンマップ2005」が6ヵ月間、展示された。又、会期中にはその他にもワークショップなど様々な催しを行い、国内外にグリーンマップ活動を知らしめる活動を行った。

中でも、グリーンマップあいちと共同開催した、「グリーンマップ・アジア交流会議-8月21日」、「グリーンマップ・アジアハブ会議-8月22日」は、創設者ウェンディ・ブラウワーやアジアからのマップ制作リーダー（インド、インドネシア、台湾）、国内のマップ制作者が一堂に集い、意義ある国際会議となった。

### ●エコ・コミュニティ形成の強力なツール

21日の一般公開のシンポジウム「グリーンマップ・アジア交流会議」では、「エコ・コミュニティ」をキーワードに、第一部-地域から見るグリーンマップ活動、第二部-グリーンマップの多彩な広がり、と題して、日本を含むアジア各国のグリーンマップ制作事例、各国マップの背後に広がる多様な市民運動、グローバルなネットワークを活かした本部との協働プロジェクトなどが紹介された。グリーンマップジャパンでは、世界のマップ制作者に参考にして頂こうと、グリーンマッ



アジアハブ会議の参加者達



21日交流会議の様

プの全容を収めた冊子「アクティビティガイド-英語版」を制作。海外参加者に配布した。

インドネシアでは、広島エコピースマップにヒントを得て、2004年12月起こったアチェの大地震の災害復興計画にGM作りを利用している事例や世界遺産パロドールとその周辺住民の生活を総体として表現したマップなどが紹介された。急激な都市の肥大化に苦しむインド・プーネでは、自然を破壊し建造される高層ビルの反対運動や「グリーンマップの先駆者たち」というGM紹介ビデオが紹介された。自然保護と環境教育を主眼とした台湾のマップ作りは全土に広がっており、強力なインストラクター養成プログラムが開発されている。愛知での取り組みでは、世界初の海のグリーンマップやCSR関連活動として利用されている企業グリーンマップが紹介され話題となった。地球環境問題の解決のためには行政や企業だけに任せるのではない「コミュニティから解答を引き出す努力」が求められる。約100名の参加者は、地域力の形成に強力なツールとして利用できる多彩な国内外のGM事例に大いにインスピレーションを刺激された。この模様は< <http://www.greenmap.org/weblog>>本部ウェブサイト参照。

## contents

- 1 グリーンマップ・アジアハブ会議報告
- グリーンマップ・アジアハブ会議報告 続き 2-3 Wendy in Takaoka, Kanazawa, Nagoya and Osaka
- マップメーカー登場! 金沢 4-5 マップメーカー登場! 台湾
- 今年度完成したマップ 川越・あだち・鎌倉 6-7 世界のグリーンマップから パワフルグリーンマップ完成
- 事務局便り 8



愛知県館で展示された愛知のグリーンマップ

●各国ハブ間の協力とアイコン改編

22日は、グリーンマップ関係者だけのクローズドな国際会議となり、各地域のリーダー23名が参加。第一部ーアジアハブネットワークの可能性を探る、第二部ーアイコン第3バージョンへ向けて、のテーマで行われ、活発な討議がなされた。ハブの可能性では、グリーンマップ活動における自国の問題点を発表・共有すると共に、日本ハブの先進事例紹介、ハブの機能、ハブ構築の意味やノウハウ、協働プロジェクトの可能性などを話し合った。ハブの機能強化のためには、財政問題もさることながら、最も重要なのはマンパワーや協力体制づくりであり、動機付けが強く問われる事を確認。また、討議の中で、国ごとのハブという枠組みを超えて、テーマによるGMハブもユニークな活動となりうるとの意見が出され、世界遺産、平和、水、青少年・子供マップ、自転車、2010年上海万博などをテーマとした活動のフレームを議論。徐々に交流を行うことを合意した。

アイコン改編プロジェクトは、アイコン第3バージョンのための討議である。グリーンマップの心臓部でもあるアイコンは現在125個あり、第2バージョンは1999年、第1バージョンを踏まえ、世界のマップ制作者の意見や提案デザインを元に主に本部ニューヨークでまとめられた。その後の活動の世界的な広がりと共に、マップ制作者からはデザインの改訂、アイコン数(特に子供用に数を絞ったアイコンセット)、意味の改訂・再検討などが寄せられている。一方で、大幅な改編は、既に制作されたマップとの繋がりが断ち切れ、混乱を招くことも考慮されなければならない。これらの課題を考慮した上で、本セッションでは、日本側・本部の担当者からアイコン改編の理念とコンセプト、改編の方法論についての概要が説明された。

特に、アイコンはグリーンマップの目指す社会を明確に表す理念に深く関わっており、将来の活動を視野に入れた上で、改編されるべきであるとの意見が多く出された。本部がNPO法人となって10年目を迎えた今年、グリーンマップ活動は「What's Next?」を考える次期にきている。会議では、「マップ作りはゴールではない」「マップを何に利用したいのか」「目指す社会を実現していくために、マップ作りをどのように利用していくか」について活発な意見が飛び交い、アイコン改編のプロジェクトを通して、これらの課題について

も考えることとなった。なお、アイコン改編のためのウェブサイトは、その後9月に設定され、中間報告がまとめられた。<<http://icons.greenmap.org/>>参照。

2日間にわたる会議は、低予算の手作り国際会議であり、ハードな内容であったが、参加者は海外のマップメーカーと初めて顔を合わせ、各々持続可能な社会の実現を目指す彼らの真摯な姿を目の当たりに見ることとなった。本会議の他にも、「グリーンマップ館」では、さみだれ的にインド、インドネシア、広島、愛知のグリーンマップによるユニークなワークショップが開かれ、楽しく活動的なこの活動の雰囲気を多くの人々に伝えることができた。GMの万博参加は3年前の立ちあげ当初、否定的な意見もあったが、その後、「グリーンマップあいち」の母体である「中部リサイクル市民運動の会」を始めとする名古屋のNPOの催しをより市民サイドのものにする努力があつて実現したものだ。この場を借りて御礼を申し上げたい。



●会議の成果とその後の動き

アジアハブ会議の交流をきっかけに、その後以下のような成果が得られた。

1. 2005年10月末、台北にて台湾グリーンマップのGM Teacher養成プログラムに、日本から3名参加。今後の協働プロジェクトについても検討、交流を深めた。
2. GMJ制作の「グリーンマップ・アクティビティガイド」の中国語翻訳が台湾の大手電子メーカー、デルタ電子の助成を受け、決定。
3. 2006年1月インドネシア・ハブ設立会議にGMSから1名参加。
4. 2006年2月、プーネとインドネシアのマップ制作者がインド・プーネ市で交流。
5. ハブ会議の討論を元に、アイコン改編のためのウェブサイト設置。世界のマップ制作者の意見を収集し、現在中間報告がまとめられた。

※アジアハブ会議の熱い議論を収録した報告書が完成しました。お問い合わせはグリーンマップ事務局まで。

インドネシアの影絵を用いたワークショップの様相



# Wendy in Takaoka Kanazawa Nagoya Osaka

2006年新春、富山大学の招きで、  
グリーンマップ創設ディレクター、ウェンディ・ブラウワーが、  
ニューヨーク本部スタッフ中島愛佳氏と来日。  
グリーンマップジャパンでは、  
この機を捉え、  
金沢、名古屋、大阪で  
講演会と交流会を開催した。



1月19日(木)名古屋  
ウェンディさん&愛佳さんを囲んで



1月17日(火)高岡  
グリーンマップ講演会



■富山大学芸術文化学部にて  
富山県高岡の富山大学芸術文化学部では、2006年度の大学の教育プログラムとして、グリーンマップ作りが採用された。学生、教員、地元自治体などが参加した「グリーンマップ講演会」では、映像を交えて多様な世界・日本のGM活動が紹介され、地元紙を始め多くのマスメディアに取り上げられた。

■グリーンマップあいちネットワーク会議にて  
名古屋では、万博の継承事業として名古屋に誘致され、多くの注目を集めている「EXPOエコマネー」の新しいセンターを見学した後、「グリーンマップあいち」のネットワーク会議に参加。昨年夏の万博以来の出会いを楽しみに、愛知県内15のグリーンマップチームの他、県職員の方や万博事業に携わったメンバーなど総勢30名以上が集まった。ウェンディから世界の最新の動きやNYのパワフルグリーンマップについて、愛佳氏からはインドネシア初のグリーンマップ国内会議に参加したようすが報告され、愛知メンバーからは、ウェンディのコメントをもらいながら万博後の各地域での動きをチームごとに報告。地域(愛知)の情報と世界の情報がなごやかに交換される、このような場の中で、参加したみんなもグリーンマップのネットワークの可能性をおおいに感じることができ、次の活動へのはずみになった。

★ 1月18日(水)金沢 金沢GMとの交流会  
「2006年新春グリーンマップフォーラム」



■県民エコステーションにて  
金沢グリーンマップを制作した「石川県くらしと環境を考える会」では、1月18日フォーラムを開催した。午前中は「金沢グリーンマップを持って歩こう」と市内のグリーンサイトをウェンディと共に散策。午後から世界のグリーンマップを紹介。今後の方向性を話し合った。会では、金沢GMに収録したお店に客が増えたかどうかを追跡調査するなど、完成後の活動をもっと強化する必要があるなどの意見が出された他、ウェンディの持参した映像を見て、マップ作りの自由で創造的な活動に改めて魅力を感じたという参加者も多かった。

A 1月20日(金)大阪  
グリーンマップ講演会と交流会



■大阪天満橋・ドーンセンターにて  
今回のツアーの最後は「世界に広がるグリーンマップ…いきいきとしたコミュニティ作りと持続可能な環境をめざして」をテーマに講演会と交流会が開催された。この会はグリーンマップジャパンと大阪のジャパンデザインソサエティが共催したもので、同会や、吹田の環境シニア大学および近隣のマップメーカーなど約25名の参加があった。大阪で初めてのウェンディの講演会ということもあって、日頃の疑問などを確認するよい機会となり、参加者からは熱心な質問がよせられた。また最近の大阪周辺のマップメイキングの動きなどをリアルに感じるひとときだった。



■ マップメーカー登場! in Japan

# 金沢 Kanazawa

金沢グリーンマップ  
石川県  
くらしと環境を  
考える会



金沢グリーンマップは、2004年3月に完成。「石川県くらしと環境を考える会」(20才代から80才代まで会員82名)がくらしの視点から古都金沢を調査し1年かけて制作したものだ。金沢城を中心に浅野川、犀川に挟まれた都心部とその周辺に152のサイトを収録。活動の拠点にしている県民エコステーションで、会長の千原好美さん他、4名のメンバーにお話を伺う。

### ● どんな会なの?

この会は、2002年のヨハネスブルグ環境サミットを目指して2001年に設立しました。当時、太平洋側の都市ではこのサミットに対していろんな声が上がっていましたが、何故かいつもそうなのですが日本海側は声が小さい。世界を見て地球市民としての目を養うと共に、足元の街がどうあればいいかを日本海側から世界に発信していく拠点にしたかった。それで県内でこれまで環境問題に取り組んできた人、某かの専門性を持っている人を中心に、今日の環境問題を引き起こしている「日々のくらしの見直し」を中心課題に据え、衣食住の今後のあり方の道筋を考えるという作業を5年間かけてやってきたのです。

会のユニークな活動例のひとつに「タンスのこやし実態調査」というのがある。環境に配慮した衣類の求め方や管理・処分のあり方を実態調査を元に、女性学の視点なども交えながら方向性を示したものだ。住の分野では「忘れられた暮らしの工夫を探してみよう」と県内で聞き取り調査を行い、気候・風土が育んできた土地の知恵を掘り起こした。いわゆるエコ住宅などの視点とは違い、技術に頼らなくとも昔の人の「住まいぶり」が現代生活にも活かせることをこの調査は示唆している。

### ● 金沢グリーンマップの視点

ヨハネスブルグサミットに、取りあえずメンバー2名を参加させ「サミットの風」だけでも持ち帰り、みんなに伝えるようにしたのです。3年目に入って、世界の環境問題も分かってきた。では世界と地元をつなぎ、発信できるいいツールが何かないかと探していた時に、グリーンマップに出会ったので

す。すぐに京都に行き、京都グリーンマップを見せて頂き、実際マップを手に歩いてみました。観光ガイドに載っていない静かな緑鬱蒼とした神社や地元の人が通う市場や裏通りなど、とても発見があつて楽しかった。金沢で作る時も、名所に加えて、歩いて発見のある場所を載せたかったし、それを地図にする楽しみもあるなあと思ったのです。

自然保護系の会員はホテルや樹木、草花、動物等を大事にして欲しいと自然を主眼にすることを主張しましたが、やはり当会では「くらし」が視点なので、日々買い物をするお店や歩いて散策する場所などを意識的に収録しました。地図の範囲には随分迷いました。というのは、寄せて頂いた300以上のサイト情報の中には金沢郊外の情報がかなりあったのです。

### ● マップを作ってみて

作ってみて、いわゆる「パパママストア」を大切にしなければならぬということ、駐車場がないなどまちづくりをする上で足りないことに随分気がつきました。傘の骨継しかやっていないと思っていた小さな店が、実は貴金属や小物の修理も丁寧にやってくれる店だったり、昔のように新聞紙に魚を包んでくれる魚屋さん等、結構みんな知っているんだなあと驚きました。でも、私達がいいと思う店の中には近所の人々が貧相な店だから載せないでくれと言われたところもあります。外向きと内向きの情報をデジタルマップで階層化すればいいかもしれません。できたマップは、お店やお寺、地元NPO、県内の市町村ほぼ全域に配り、会のイベントなどにも持って行きます。

### ● その後の取り組み

昨年、若手メンバーは石川県立大学学園祭の催しでグリーンマップのワークショップを開催した他、今年、福井・岐阜・石川県にまたがる「環白山保護利用管理協会設立準備委員会」の発足を機に、自然保護をテーマにしたグリーンマップが利用できないかと提案中だ。会では、月1回の定例会の他、年に1回は泊まりがけで外に出掛ける。「環境は大切。でも地域のひとと話さなければ実のある活動は見えてこない。人を大切にする会でありたい。」と皆さん語ってくれた。



千原好美さん  
(会長)



小西美津子さん  
(副会長)



千原かや乃さん



宮下明美さん



五井隆浩  
さん

# 台湾

Taiwan  
グリーンマップ台湾

グリーンマップ台湾(以下GM)は荒野保護協会が推進しています。同協会は1995年に成立した、会員数1万人を数える台湾最大の環境保護団体で、主な活動は自然ガイド、児童向けの自然教育、GM、生態系回復などです。

荒野保護協会は1998年にGMに正式登録しましたが、人手不足のため2001年に漸くGMの推進を始めました。私たちはGM制作を通じて、市民が自らの環境に対し理解や関心を深め、より多くのグリーンな行動や地球にやさしい生活を通して、環境のバランス維持や各地の持続的発展をめざしています。グリーンな概念と行動を日常生活に根付かせる必要があるため、私たちはGMを「緑色生活地図」と呼んでいます。

5 荒野保護協会は既に自然ガイド養成のよい訓練プログラム持っているのを、それをGMの活動にも導入しています。GMの講師を訓練し、各コミュニティ、学校へ派遣するなどしてGMを推進しています。また、各地のマップ制作の経験を蓄積し、地域ごとに異なる推進方式を考え、GMが有効に環境保護に応用されるよう工夫しています。現在、当会の訓練を受けたGM講師が全国10支部にほぼ配置され、各地でGMを推進しています。これらのパワフルな講師は全て他分野で活躍するボランティアで、GMが台湾で発展するための重要な柱となっています。2005年末までに、私たちは50回以上のワークショップを開催し、1,800人のマップメーカーを指導し、20枚以上の地図を出版しました。そして2005年にはGMの制作物語を集めた『地図で有気運動』を出版、2006年に国内のよい本に送られる金鼎賞にノミネートされました。

GMには環境に関心を持つ人を魅了する魔力があります。例えば学校の先生は社会の文化、自然環境、芸術を結びつけるため、GMを好んで授業に導入します。コミュニティ関係者はGMがコミュニティを活性化し、その青写真を描ける点、企業関係者はGMが企業の社会的責任を表現することのできる点に注目しています。GM台湾がマップ制作の中で重視するのは、1現地住民の参加度、2住民の環境に対する体験および学習の程度、そして3マップ完成後、いかにコミュニティを守る力を形成、維持するかです。私たちは常に試行錯誤を続けています。学生や住民がGMを



用いて自分の校内やコミュニティを紹介すると、心から感動します。地図の命が引き継がれ、緑の萌芽を見るような気がするからです。

2005年8月に日本を訪れ、愛・地球博でGMアジアハブ会議に参加できたのは非常に光栄でした。GMジャパンおよび中部リサイクル運動市民の会に感謝します。GM台湾からは15人が自費で参加し、各国の経験に学び、交流の糸口を得た非常に価値ある会議でした。また、GMの日本における急速な発展にも非常に鼓舞されました。2005年10月には、GMジャパンの右衛門佐さん、北條さん、および中部リサイクル運動市民の会の中川さんが来台し、私たちの講師育成講座を見学に来られました。

最後に、GMシステムのウェンディ・ブラウアーとGMジャパンの支援とアドバイスに謝意を表します。特に、GMジャパンが著作権を持つ、深さと国際的視野に満ちたガイドブック—GMアクティビティガイドの翻訳、使用を許可されたのは、私たちのGM推進に大きな助けとなりました。環境保護の道を多くの友と歩むのは、非常に喜ばしいことです。そして、将来さらに多くの交流と協力の機会を持つことを願っています。

グリーンマップ台湾主催 汪仁珮(ワンジェイ・ペイ)

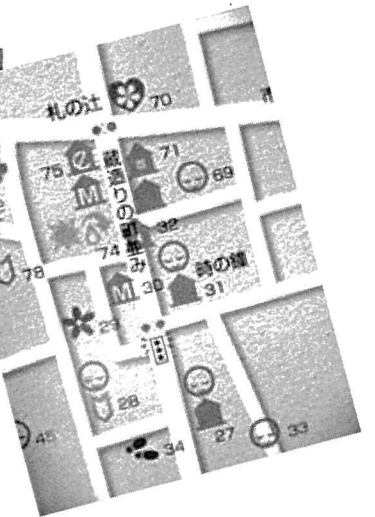
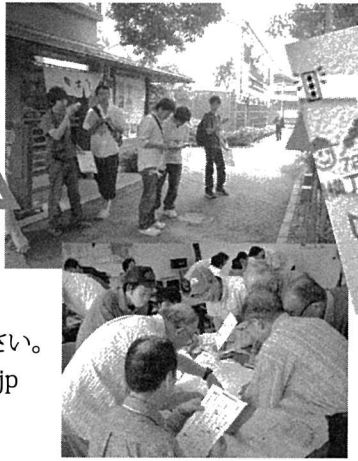


2005年4月～2006年3月

●今年度完成したマップ 日本編

new map

## 川越

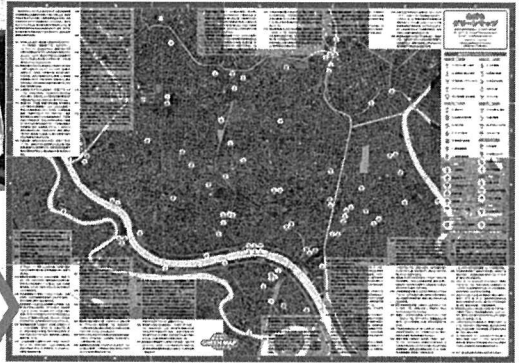


- 1.名称:川越グリーンマップ(埼玉県川越市)
- 2.発行日:2005年3月
- 3.企画・発行:川越市環境部環境政策課環境推進係
- 4.入手方法:1部/100円+郵送料を郵便小為替で送ってください。
- 5.問い合わせ先:KANKYOSEISAKU@city.kawagoe.saitama.jp  
〒350-8601 川越市元町1-3-1  
Tel: 049-224-881 (内2613)

6.概要--表面は蔵造りの町並みを中心としたエリアで構成され、時の鐘や菓子屋横丁等の川越を象徴するポイントが掲載されています。裏面は川越市内全域で構成され、湧水地や伊佐沼等の川越の自然が多く掲載されています。また、川越の特徴である蔵とお菓子をモチーフにし、川越オリジナルアイコンとして、お菓子アイコンと蔵アイコンを作成しました。グリーンマップを携え歩くことにより、身の回りの環境について気づくことができ、環境意識の向上へとつながります。また、環境問題に取り組むきっかけとなればよいと考えています。自治体がグリーンマップ作成者となり、地元市民や学生、民間団体等と協働しながら作成するのは、全国で初めて。ワークショップは6回開催し、参加人数は計137名です。

new map

## あだち

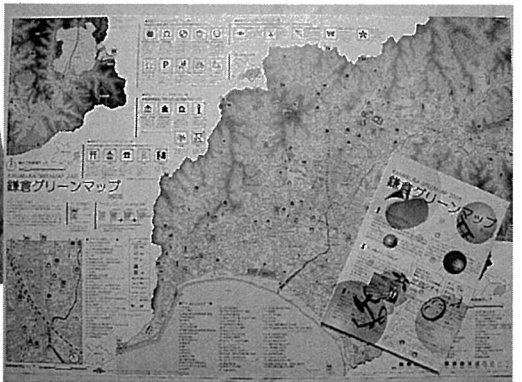


- 1.名称:あだちグリーンマップ(東京都足立区)
- 2.発行日:2005年10月15日
- 3.企画・発行:NPO法人 エコロジー夢企画
- 4.入手方法:1部/300円+郵送料を郵便小為替で送ってください。
- 5.問い合わせ先:info@ecoyume.net  
〒120-0014 東京都足立区西綾瀬1-1-14  
Tel: 03-3886-6554 (三井)

6.概要--エコロジカルな都市づくりをめざしているNPO法人エコロジー夢企画が、航空写真をベースに作成しました。足立区は8つの河川とたくさんの水路に囲まれた水辺の町です。ちょっとした小道にせせらぎと緑があり、ゆったり散歩できる親水水路がたくさん整備されていました。水路は、朝夕に涼しい風を送り、街中の温度が上がってしまうヒートアイランド現象を和らげるのに役立ちます。また関原の中学3年生が取り組んだ「キッズグリーンマップ関原」の中から、特におすすめの5つのポイントをみんなの話し合いの中から選んでもらい掲載しました。この地図を持って足立区探検に繰り出しませんか。

new map

## 鎌倉



- 1.名称:鎌倉グリーンマップ(神奈川県鎌倉市)
- 2.発行日:2006年3月25日
- 3.企画・発行:鎌倉グリーンマップ(代表 島尾真亮)
- 4.入手方法:郵送もしくはNPOセンター鎌倉にて配付
- 5.問い合わせ:to-kgm@excite.co.jp  
〒248-0012 鎌倉市御成町18-10 NPOセンター鎌倉内 BOX31  
Tel: 070-6558-8649(土日祝日のみ)

6.概要--鎌倉は、海・山・緑の自然環境と、古都の史跡、そして近年の文化遺産など、自然・歴史・文化に恵まれています。また、温暖な気候と四季が良好な住環境をつくり出し、豊かな生活と緑の潤いある街として知られています。鎌倉グリーンマップは、路・レッドデータ・アイコンと時代の関係、という3つのキーワードに基づくまちの発見から、「時代性」と「見る・使う・活かす」をコンセプトとした歴史と環境の関係を追求したグリーンマップです。そして良好な居住地、国内有数の観光地、風光明媚な土地である鎌倉の魅力アイコンに託し、まちの風土と文化を表現しています。このプロジェクトでは市民が中心となって行い、鎌倉が歩んできた時代と歴史を現代に活かして、新たな発見と理解を深めていきます。そして、街を楽しく歩くための情報ツールとして位置付けています。



エネルギーをテーマにした

from New York

「パワフルグリーンマップ」完成!!

エネルギー問題を正面から見据えた、ニューヨークのグリーンアップルマップ第5版となる最新版、パワフルグリーンマップができあがった。着想は、2003年ニューヨークを混乱に陥れた大停電の夜。完成は、2005年のニューヨーク交通ストの最中だった。エネルギー問題、ライフスタイルの持続性についての関心、懸念が、地域でも地球規模でも前面に出てきた時期である。開発チームが何よりも心がけたのが、このマップが、今まさに行動する、しなければならないという重要かつ切羽つまった制作動機をはっきり視覚的に示すこと、そして現在ニューヨークに暮らす誰もが利用可能な、先端的かつ現実的な解決策を示すことであった。

ニューヨークは、エネルギー浪費大国アメリカの、いわばシンボリック的存在だが、同時に世界で最も環境効率に優れた都市のひとつになるチャンスも持っているといえる。しかしそれが可能になるのは、市民ひとりひとり、企業や政府機関全てが、自らの問題としてエネルギー問題に取り組んだときだけだ。パワフルグリーンマップの目標は、その関係者みんなを巻き込んで、積極的に日々の省エネに取り組んでもらうこと、浪費を減らし、再生可能エネルギー、分散型テクノロジーを駆使し、健康、気候そして経済への影響を緩和する第

一步を踏み出すための水先案内をすることだ。NYCでできることなら世界中どこでもできる。大切なのは、毎日の小さな一歩であることを、このパワフルグリーンマップは教えてくれる。

マップの形式は3つ。ポケットサイズの折畳み式紙媒体、ポスター、デジタル版だ。日々の暮らしに役立ち、環境効率に優れた「グリーンな」方法、場所、情報そして選択肢が満載され、そこから包括的で、未来に向けたより大きな視点も獲得できるよう工夫されている。

・LoMapを思わせる折畳み式マップは、エネルギー問題の「影の部分」「明るい部分」「未来への投資」の3種類の地図を収録。現状や先端的な取り組みが立体的に理解できる。

・ポスターは、2枚組みペア。スペースに応じ、上下にも横一列にも張ることができる。

・時間的変化に対応できるのが魅力のデジタル版は、ウェブサイトでPDFをダウンロードしさえすれば、双方向で使用できる。クローズアップも自由自在。200以上の関連ウェブサイトもリンクされており、興味のあるサイトをクリックするだけで、豊富な最新データ、情報が手に入る。

データベース主導型の双方向的マップの構築もすでに始まり、GoogleMapやさまざまなネットワーキングツールも試験中。どんどん斬新なアイデア、意見を提供して下さい。

まずは、「パワフルグリーンマップ」のウェブサイトを探検してみよう。持続可能な世界づくりに向けた多くのヒントが見つかるはずだ。

(<http://greenapplemap.org/page/power>)



※数に限りがありますが「パワフルグリーンマップ」(一人一部まで)をお分けします。切手90円分を同封し、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記の上、「パワフルグリーンマップ希望」と書いて、グリーンマップジャパン事務局までお申し込み下さい。



●New Comers, Welcome!

2005年度(2005.4~2006.3)参加登録された所です。

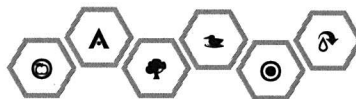
地域など	グループなど	テーマなど
兵庫県尼崎市	NPO法人尼崎21世紀の森	道路の沿道や水辺の環境改善
長野県安曇野郡穂高町	大学生	未定
福岡県北九州市	NPO法人里山を考える会	自然との共生
兵庫県宝塚市	市内環境団体	自然と人の手で作られたものの調和
千葉県船橋市	NPO法人コミュニティアートふなばし	歩行者に優しいまち
大阪市中央区	市内団体	緑の使われ方、路傍のメンテ
長野県松本市		身近にある自然発見と保護
神奈川県葉山町	関東学院大学	自然環境(海、山里)と歴史文化環境
栃木県宇都宮市	作新学院大学女子短期大学部	町の中の自然環境
和歌山県和歌浦	(財)和歌山社会経済研究所	環境保全(自然景観破壊)
福岡県飯塚市	近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科	飯塚市自転車利活用
富山県高岡市	富山大学芸術文化学部	Co2排出量の削減を意識した観光
大阪府南河内郡	大阪芸術大学環境デザイン学科	石川流域グリーンマップ
大阪ウェブマップ	大阪府産業デザインセンター	コミュニティを横断的にリンクできる環境地図
東京都東京自転車	アーバンエコロジー東京	自転車に乗れば毎日がアースデイ
世田谷区	奥沢土とみどりを守る会	景観保全

●アイコン改編プロジェクト進捗状況

… 広島GM 千代章一郎

現在グリーンマップ本部では、GMJと協働でアイコンの第3バージョン改編のプロジェクトが進行中です。2005年8月のアジアハブ会議でのアイコンver3に関する議論を踏まえ、中島愛佳さんが中心となってWebでのアンケートが実施されました。2006年2月に広島GMの木原一郎が、ニューヨークのWendyのオフィスで、中島愛佳さんとその集計・分析作業を実施しました。到着早々の記録的な大雪にもメゲズ、Icon Survey Reportを作成し、またそれをふまえ今後のIcon Update Projectスケジュール(案)を作成しました。要点は以下の通りです。

- ・スタンダードセットの設定
- ・3つの大カテゴリーの設定
- ・現在の11カテゴリーの再考
- ・統廃合によるアイコン総数の削減



現在は広島GMで千代・木原を中心として、Icon Survey Reportや過去の研究データをもとに、アイコンver3のデザインポリシーについて、6月を目途に制作中です。

●ホームページ改編作業進行中

… GMJ 北條崇

ただ今、日本のマップ正式登録者のリスト等を整備したホームページの改編作業を行っております。マップ制作の進捗状況もパスワードを割り当て、各々のグループ担当者から入力できるようになります。その他の情報も充実させる予定であります。今暫くお待ち下さい。

■事務局からのお願い

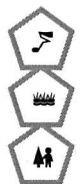
- 1.年会費の納入をお願いします。会費は貴重な運営資金です。どうぞご理解下さい。  
振替先:郵便振替口座 00920-4-278590  
加入者名:特定非営利活動法人 グリーンマップジャパン
- 2.マップが完成しましたら、速やかに事務局までお知らせ下さい。その際、ホームページに載せる画像をご用意下さい。
- 3.「グリーンマップ・アクティビティガイド」好評発売中。1冊1000円。事務局まで。
- 4.グリーンマップの紹介パンフレット(A4三つ折)をご用意しております。事務局まで。

●編集後記:

グリーンマップジャパンがNPO法人となって、1年経ちました。日本全国に散らばっているマップメーカーや世界のマップ制作の息吹をお伝えしようと、「Green Map Harmony」創刊号を編集致しました。アジアハブ会議でも、「Map Making is not a goal」という意見が多くてたように、現実を少しでも変えていくためにグリーンマップを利用していききたいものです。事務局は、何しろ初めてのことばかりの上、スタッフは正規の仕事と掛け持ちで運営していますので、何かと至らないことが多かったと存じますがご許し下さい。この活動の性格上、会員の皆さんが全国に散らばっているため、作業の分担といってもなかなか難しいのが現状です。助成金の申請や編集・翻訳作業、コンピュータの作業などをシェアして下さる方、歓迎です。(よ)

●Green Map Harmony

- 発行日:第一号 2006年5月15日
- 企画・発行:特定非営利活動法人 グリーンマップジャパン
- 編集人:右衛門佐美佐子
- デザイン:田中裕子
- 翻訳:大屋幸子



GREEN  
MAP  
JAPAN

■グリーンマップジャパン事務局  
〒606-8225 京都市左京区田中門前町90  
tel: 075-712-8834 fax: 075-702-6223  
e-mail: info@greenmap.jp  
URL: http://www.greenmap.jp



グリーンマップはGreen Map Systemの商標であり、アイコン及びロゴには著作権があります。禁無断転載・複製。  
著作権: Green Map System, Inc. 2005.